

やさしく
ニャンハウかしこく
トンミンたくましく
ホーエマイン

校長 佐藤之保

「調和」へ

2011年の東日本大震災後、政府や自治体も災害への対応を強化してきました。それでも、各地の経験から見えてきたのは、いざという時にもっとも力を発揮したのは、日ごろから育てていた「住民同士のつながり」でした、とはある報道の記事です。

これは、多くの人たちが感じたことではないでしょうか。人の生活にとって、コミュニティの力はとても大切なものだということを、改めて感じさせられます。



子供たちが、自分の生活を守り、幸せに暮らしていくには、「社会と調和し、協力していける精神性」を、自分の中に育てていくことがとても重要だと思います。

では、そのような「社会と調和し、協力していける精神性」は、どのようにして育まれていくのでしょうか。

大きな土台の一つとして、「他者は仲間である」という考え方をどれだけ持てるか、ということが重要であると考えます。生きていけば、人に傷つけられたり、いやな思いをしたりさせたりすることもあります。逆に、人と一緒に感動したり、共感したりすることもあります。嫌な思いがあるから「感動」が一層嬉しいものになるということも言えます。いろいろな経験や思いの中から、より深い「他者は仲間である」という考え方が育まれていくのではないのでしょうか。

また、「他者は仲間である」という考え方を持つには、自分に一定の自信が必要です。自分の価値や尊さを実感できない中では、他者に依存するか嫌悪するかというマイナスの感情がわきやすくなってしまいます。

人はみんな違います。そうだからこそ、共通点を見つけ、同じ願いや思いを持っていることを感じ、調和していける力を、子供たちには身に付けていってほしいと思います。

自分の決めつけの中ですぐに相手の悪口を言ったりするのではなく、子供たちには、違いを認め、自分の尊さを感じながら、自分の思いと共に相手の思いを大切にしようとし、調和を図っていけるような「社会と調和し、協力していける精神性」をもった生き方ができるようになってほしい、と思います。

多様な対立が存在する現在の世界情勢の中、「調和」を図っていくことは、今まで以上に大切になっていくのではないのでしょうか。また以前より教育界でも「これからは答えが見えない社会になる」とは、多くの方々が言ってきたことです。どんな環境の中でも、自信をもち、他者とも協力していける、「調和した社会」を目指す一員として、どの子供にも幸せになってほしいと願います。



5日(日)の授業参観のお誘い

○授業参観に、ぜひおいでください。子供たちは新しい年を迎え、モチベーションを高く持ち、いろいろなことに取り組んでいます。教員も、授業準備を重ね、日々授業の改善を図っています。授業は教員だけでなく、教員と子供が作り上げるものです。「主体的に学ぶ」という観点からは、学習者である子供たちが自ら授業を作っていく、という考え方はとても重要です。それは、子供たちが自分の人生を積極的に作っていくとする態度を養うことにもつながります。

何が正解かを探していく授業も大切ですが、多様な考えを認め、友だち同士で積極的にかかわる中で、自分になかった「新たな視点」や「気づき」を得たり、共に感動したりする授業もとても重要です。

○御参観の前に、お子さんに「その授業で何を勉強したいか?」をぜひ聞いてみてください。まだ決めてないようであれば、一緒にお考えいただければと思います。